

# 児童養護施設入所児の職員観と生活意識

高橋千枝<sup>\*</sup>・内藤直人<sup>\*\*</sup>・田丸敏高<sup>\*</sup>・奥野隆一<sup>\*</sup>・神谷哲司<sup>\*\*\*</sup>  
瀬尾麻実<sup>\*\*\*\*</sup>・田村崇<sup>\*\*\*\*\*</sup>・内藤綾子<sup>\*\*\*\*\*</sup>

## How Children Understand Their Lives and the Position of Staff in Children's Homes

TAKAHASHI Chie, NAITO Naoto, TAMARU Toshitaka, OKUNO Ryuichi,  
KAMIYA Tetsuji, SEO Asami, TAMURA Takashi, NAITO Ayako

キーワード：児童養護施設，児童の生活，インタビュー

Key Words：children's homes, life of children, interview

### I. 問題と目的

これまでに我々は、児童養護施設における子どもの育ちについて改めて検討するため、児童養護施設の施設長を対象とした調査（田丸・神谷・奥野・塩野谷，2008）や職員を対象とした調査を行ってきた。また児童養護施設に入所している子どもたちの権利理解についても調査を行ない、子ども達は施設での生活における自身の権利に対する理解が十分ではないことが明らかとなった（内藤・田丸・田村・瀬尾，2009）。施設に入所している子ども達にとって、自身の育ちや生活の保障を考えることは重要なことと考えるが、実生活では十分に考えられていないことが多いようである。

そこで本研究では、児童養護施設（以下施設）に入所している子ども達にインタビュー調査を実施し、子どもの実生活に焦点をあて、生活主体者としての子どもが、施設の役割や職員の仕事をどのように認識し、また自らの意見の表明や権利をどのように理解しているのかについて検討する。

具体的には、まず第一に職員の仕事に関して、①職員はどのような仕事をしているのか、②「職員にして欲しいこと」や実際にそれらをやってくれていると認識している程度について明らかにする。そして、子どもたちの認識する「職員」の立場や職員に対する要望やその充足度を検討する。第二に、子どもの意見表明に関して、施設内で子ども自身が意見表明を行う機会があるかどうかについて、施設内の行事を取り上げ、その運営を①誰が決定するか、②意見が食い違ったときにどうするかについて明らかにする。また、①施設の生活として変えてほしいこと、②なんでもできる1日があったら何をするかについて明らかにする。そして、施設において子どもの意見表明権が保持されているかどうかについて検討する。

\* 鳥取大学地域学部地域教育学科  
\*\* とっとり若者サポートステーション  
\*\*\* 東北大学大学院教育学研究科  
\*\*\*\* 鳥取大学大学院地域学研究科

\*\*\*\*\* 自立援助ホーム倉吉スマイル  
\*\*\*\*\* 鳥取短期大学幼児教育保育学科

## II. 方法

### 1. 調査協力児

鳥取県内5養護施設の小学生・中学生・高校生132名

Table 1 調査協力児

学年	性別		合計
	男	女	
小学1年生	4	5	9
小学2年生	5	5	10
小学3年生	8	7	15
小学4年生	7	10	17
小学5年生	5	7	12
小学6年生	9	11	20
中学1年生	7	5	12
中学2年生	6	6	12
中学3年生	3	3	6
高校1年生	7	3	10
高校2年生	0	1	1
高校3年生	7	1	8
合計	68	64	132

人

### 2. 調査期間

2008年8月～9月

### 3. 調査場所

各施設内の部屋

### 4. 調査者

事前に面接トレーニングを受けた大学と施設の職員計17名

### 5. 手続き

1対1の半構造化面接調査を一人あたり20分程度おこなう。インタビュアーはラポールをとり、子どもが話しやすい雰囲気になったところで質問を開始する。また子どもの権利ノートは小学生版と中高生版とにわけて作成されている。そこで本調査でも、質問項目の一部を小学生の質問項目と中高生の質問項目にわけて作成した。

### 6. 質問項目

具体的な質問項目は以下の通りである。職員の仕事に関する項目については学年別の項目を設け、施設での生活に関する項目については、共通の項目を設けて質問した。

Table 2 質問項目

	実際のインタビュー内容 (小学生)	実際のインタビュー内容 (中学生)	
1 職員の 仕事 について	(1) どんな仕事をしているか	〇〇さんにとって身近な施設(ホーム)の先生を一人思い浮かべてください。その先生は、普段どんな仕事をしていますか？	施設(ホーム)の先生は、普段どんな仕事をしていますか？聞かせてください
	(2) 職員の仕事の男女の差		では、女の先生の仕事と、男の先生の仕事では、違いはありますか？
	(3) 職員の普段の様子	さっき思い浮かべた先生の、普段の様子について〇〇さんがどう思うか、5個質問します。一つずつ読んでいくので、1. はい、2. いいえを選んでください。	施設(ホーム)の先生の様子について〇〇さんがどう思うか、質問します。それぞれの質問について「1. すごくそう思う、2. ちょっとそう思う、3. あまりそう思わない、4. ほとんどそう思わない」の中から一つ選んで、数字に○をつけてください
	(4) 職員にしてほしいこと、実際にどれくらいしてくれるか	さっき思い浮かべた先生に、〇〇さんがして欲しいと思うことについて質問します。ひとつずつ読んでいくので、「1. とてもしてほしい、2. ちょっとしてほしい、3. あまりしてほしくない、4. ほとんどしてほしくない」から○をつけて下さい	施設(ホーム)の先生に、〇〇さんがして欲しいと思うことについて、さっきと同じように「1. すごくそう思う、2. ちょっとそう思う、3. あまりそう思わない、4. ほとんどそう思わない」の中から一つ選んで、数字に○をつけてください
		次は、施設(ホーム)の先生たち、みんなを思い浮かべて下さい。先生たちは、〇〇さんに、これから読むことを、どのくらいしてくれますか？一つずつ読むので、さっきと同じように「1. とてもしてあげる、2. ちょっとしてくれる、3. あまりしてくれない、4. ほとんどしてくれない」から○をつけて下さい	施設(ホーム)の先生の様子について〇〇さんがどう思うか、質問します。それぞれの質問について「1. すごくそう思う、2. ちょっとそう思う、3. あまりそう思わない、4. ほとんどそう思わない」の中から一つ選んで、数字に○をつけてください
(5) 職員にしてあげたいこと	〇〇さんが、施設(ホーム)の先生たちにしてあげたいことがありますか？「何をしてあげたいですか？」		
2 施設 での 生活 について	(1) 施設生活で変えてほしいこと	〇〇さんが施設(ホーム)で生活する中で変えてほしいことはなんですか？3つ教えてください	
	(2) 好きなことができる1日があったら何をするか	なんでも好きなことができる1日があったら〇〇さんは何をしたいですか？	
	(3) 行事は誰が決めるか	行事の内容についてはだれが決めますか(クリスマス会、キャンプ、遠足・旅行)	
	(4) 違う意見が出た時にどうするか	じゃあ、もし、クリスマス会の事をみんなで決めていて、〇〇さんが思っている事と違う意見が出たとき、〇〇さんはみんなに何て言いますか？	
	(5) けんかをしたことがあるか	〇〇さんは施設(ホーム)で他の子とケンカしたことがありますか？	
	(6) 仲直りの方法	施設(ホーム)でケンカしたとき、〇〇さんはどうやって仲直りしましたか？	

### Ⅲ. 結果

#### 1. 職員はどんな仕事をしているか

Table 3 をみると、小学生では子どもの間接的な支援に関わる仕事として、「家事(衣食住)」が36人(44.4%)、「記録・事務作業」が12人(14.8%)、「会議・職員間の連携」が6人(7.4%)、「その他」が2人(2.5%)であった。また子どもと直接関わる仕事として、「遊び」が12人(14.8%)、「話・相談」が3人(3.7%)、「学習支援」が12人(14.8%)、「生活の指導・支援」が25人(30.9%)、「その他」が3人(3.7%)であった。

中学生では子どもの間接的な支援に関わる仕事として、「家事(衣食住)」が40人(81.6%)、「記録・事務作業」が10人(20.4%)、「会議・職員間の連携」が2人(4.1%)、「その他」が2人(4.1%)であった。また子どもと直接関わる仕事として、「遊び」が5人(10.2%)、「話・相談」が7人(14.3%)、「学習支援」が6人(12.2%)、「生活の指導・支援」が29人(59.2%)であった。

Table 3 職員はどんな仕事をしているか(複数回答) 小学生81人, 中学生49人

		小学生	中学生
子どもの間接的な支援に関わる仕事	内訳	家事(衣食住)	36 ( 44.4 ) 40 ( 81.6 )
		記録・事務作業	12 ( 14.8 ) 10 ( 20.4 )
		会議・職員間の連携	6 ( 7.4 ) 2 ( 4.1 )
		保護者対応	0 2 ( 4.1 )
		その他	2 ( 2.5 ) 0
子どもと直接関わる仕事	内訳	遊び	12 ( 14.8 ) 5 ( 10.2 )
		話し・相談	3 ( 3.7 ) 7 ( 14.3 )
		学習支援	12 ( 14.8 ) 6 ( 12.2 )
		生活の指導・支援	25 ( 30.9 ) 29 ( 59.2 )
		その他	3 ( 3.7 ) 0
分類不能		14 ( 17.3 ) 4 ( 8.2 )	
わからない・沈黙		21 ( 25.9 ) 2 ( 4.1 )	
		人(%)	

※子どもの間接的な支援に関わる仕事「その他」:「事務所にあって電話」「パソコンで調べる」等  
 ※子どもと直接に関わる仕事「その他」:「泣いている人を慰める」「男子部で人にやさしくする」等

## 2. 職員の仕事の男女の差 (中学生のみ)

男女の差が「ある」と回答した中学生は10人(20.4%),「ない」が33人(67.3%),「わからない」が6人(12.2%)であった。「ある」と答えた子どもにはその違いを聞いた。回答は「男の先生は力仕事,女の先生は家事」「男の先生がいたらあんまりけんかがないけど,女の先生がいたらいっぱいけんかする」「学園の行事とかは男の先生が仕切ったりとか」「男女の寝かしつけ」「男の先生は自分の部屋で寝るけど,女の先生は家に帰って寝る」「なんとなく」といったことであった。

## 3. 職員の普段の様子

小学生では,“①イライラしていることがよくある”で「はい」が20人(24.4%),「いいえ」が61人(74.4%),「わからない」が1人(1.2%),“②子どもといっしょに遊んでくれる”で「はい」が54人(67.5%),「いいえ」が25人(31.3%),「わからない」が1人(1.2%),“③いつも忙しそうにしている”で「はい」が58人(71.6%),「いいえ」が20人(24.7%),「わからない」が3人(3.7%),“④体の調子が悪そうなことがよくある”で「はい」が11人(13.6%),「いいえ」が70人(86.4%),“⑤子どもと接することに喜びを感じている”で「はい」が61人(75.3%),「いいえ」が13人(16.1%),「わからない」が7人(8.6%)であった(Table 4)。

また中学生では,「すごくそう思う」と「ちょっとそう思う」を足した回答人数が多かった上位3項目は,“②子どもといっしょに遊んでくれる”40人(81.6%),“③いつも忙しそうにしている”34人(69.9%)“⑤子どもと接することに喜びを感じている”30人(61.2%)であった(Table 5)。

Table 4 職員の普段の様子 (小学生)

小学生	はい	いいえ	わからない
①イライラしていることがよくある	20 ( 24.4 )	61 ( 74.4 )	1 ( 1.2 )
②子どもといっしょに遊んでくれる	54 ( 67.5 )	25 ( 31.3 )	1 ( 1.2 )
③いつも忙しそうにしている	58 ( 71.6 )	20 ( 24.7 )	3 ( 3.7 )
④体の調子が悪そうなことがよくある	11 ( 13.6 )	70 ( 86.4 )	0
⑤子どもと接することに喜びを感じている	61 ( 75.3 )	13 ( 16.1 )	7 ( 8.6 )

人(%)

Table 5 職員の普段の様子 (中学生)

中学生	すごく	ちょっと	あまり	ほとんど
	そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
①イライラしていることがよくある	1 ( 2.0 )	16 ( 32.7 )	17 ( 34.7 )	15 ( 30.6 )
		<b>17 ( 34.7 )</b>	<b>32 ( 65.3 )</b>	
②子どもといっしょに遊んでくれる	28 ( 57.1 )	12 ( 24.5 )	4 ( 8.2 )	5 ( 10.2 )
	<b>40 ( 81.6 )</b>		<b>9 ( 18.4 )</b>	
③いつも忙しそうにしている	15 ( 30.6 )	19 ( 38.8 )	14 ( 28.6 )	1 ( 2.0 )
	<b>34 ( 69.4 )</b>		<b>15 ( 30.6 )</b>	
④体の調子が悪そうなことがよくある	2 ( 4.1 )	9 ( 18.4 )	18 ( 36.7 )	20 ( 40.8 )
	<b>11 ( 22.5 )</b>		<b>38 ( 77.5 )</b>	
⑤子どもと接することに喜びを感じている	11 ( 22.4 )	19 ( 38.8 )	16 ( 32.7 )	3 ( 6.1 )
	<b>30 ( 61.2 )</b>		<b>19 ( 38.8 )</b>	

人(%)

\*下段は、それぞれ「すごくそう思う」と「ちょっとそう思う」、「あまりそう思わない」と「ほとんどそう思わない」の合計人数および割合。

#### 4. 職員にしてほしいことと、実際にどれくらいしてくれているか

Table 6は小学生の「して欲しいと思うこと」および「どのくらいしてくれるか」を示したものである。「して欲しいと思うこと」を“希望”，「どのくらいしてくれるか」を“実際”として整理した。Table 7は中学生の尺度と統一するため，回答を“1. とてもしてほしい，2. ちょっとしてほしい，3. あまりしてほしくない，4. ほとんどしてほしくない”から“1. すごくそう思う，2. ちょっとそう思う，3. あまりそう思わない，4. ほとんどそう思わない”へ変換している。また同様に“1. とてもしてくれる，2. ちょっとしてくれる，3. あまりしてくれない，4. ほとんどしてくれない”を“1. すごくそう思う，2. ちょっとそう思う，3. あまりそう思わない，4. ほとんどそう思わない”へ変換して整理を行った。

“希望”で「すごくそう思う」および「ちょっと思う」と答えた人数が多かった上位3項目は，“③べんきょうをおしえてほしい”71人(87.7%)，“②いっしょにあそんでほしい”70人(86.4%)，“⑤じぶんのよいところはほめてほしい”70人(87.5%)，“⑥たのしいことやうれしいことはいっしょによろこんでほしい”70人(87.5%)であった。

“実際”で「すごくそう思う」および「ちょっと思う」と答えた人数が多かった上位3項目は，“③べんきょうをおしえてほしい”73人(89.0%)，“⑨ごはんをいっしょにたべてほしい”71人(86.6%)，“⑤じぶんのよいところはほめてほしい”68人(84.0%)であった。

Table 7は中学生の「して欲しいと思うこと」を“希望”，「どのくらいしてくれるか」を“実際”として整理したものである。“希望”で「すごくそう思う」および「ちょっと思う」と答えた人数が多かった上位3項目は，“④いけないことは叱ってほしい”37人(77.1%)，“⑥楽しいことやうれしいことは一緒に喜んでほしい”35人(72.9%)，“③勉強を教えてほしい”32人(66.7%)であった。

“実際”で「すごくそう思う」および「ちょっと思う」と答えた人数が多かった上位3項目は、“④いけないことは叱ってほしい”46人(93.9%)，“⑨ご飯を一緒に食べてほしい”44人(89.8%)，“話を聞いてほしい”42人(85.7%)であった。

Table 6 職員にしてほしいこと、実際にどれくらいしてくれるか(小学生)

		すごく そう思う	ちょっと そう思う	あまり そう思わない	ほとんど そう思わない
①はなしをきいてほしい	希望	40 ( 49.4 )	28 ( 34.6 )	12 ( 14.8 )	1 ( 1.2 )
	実際	<b>68 ( 84.0 )</b>	25 ( 30.5 )	<b>13 ( 16.0 )</b>	4 ( 4.9 )
②いっしょにあそんでほしい	希望	53 ( 65.4 )	17 ( 21.0 )	6 ( 7.4 )	5 ( 6.2 )
	実際	<b>70 ( 86.4 )</b>	29 ( 35.4 )	<b>11 ( 13.6 )</b>	9 ( 11.0 )
③べんきょうをおしえてほしい	希望	43 ( 53.1 )	28 ( 34.6 )	7 ( 8.6 )	3 ( 3.7 )
	実際	<b>71 ( 87.7 )</b>	17 ( 20.7 )	<b>10 ( 12.3 )</b>	4 ( 4.9 )
④いけないことはしかってほしい	希望	39 ( 48.1 )	22 ( 27.2 )	12 ( 14.8 )	8 ( 9.9 )
	実際	<b>61 ( 75.3 )</b>	12 ( 14.6 )	<b>20 ( 24.7 )</b>	5 ( 6.1 )
⑤じぶんのよいところはほめてほしい	希望	54 ( 67.5 )	16 ( 20.0 )	8 ( 10.0 )	2 ( 2.5 )
	実際	<b>70 ( 87.5 )</b>	16 ( 19.8 )	<b>10 ( 12.5 )</b>	4 ( 4.9 )
⑥たのしいことやうれしいことはいっしょに よろこんでほしい	希望	54 ( 67.5 )	16 ( 20.0 )	7 ( 8.7 )	3 ( 3.8 )
	実際	<b>70 ( 87.5 )</b>	23 ( 28.4 )	<b>10 ( 12.5 )</b>	5 ( 6.2 )
⑦いっしょにねてほしい	希望	25 ( 30.9 )	13 ( 16.0 )	16 ( 19.8 )	27 ( 33.3 )
	実際	<b>38 ( 46.9 )</b>	16 ( 19.5 )	<b>43 ( 53.1 )</b>	39 ( 47.6 )
⑧だっこしてほしい	希望	7 ( 8.6 )	14 ( 17.3 )	11 ( 13.6 )	49 ( 60.5 )
	実際	<b>21 ( 25.9 )</b>	3 ( 3.6 )	<b>60 ( 74.1 )</b>	55 ( 67.1 )
⑨ごはんをいっしょにたべてほしい	希望	44 ( 54.3 )	16 ( 19.8 )	11 ( 13.6 )	10 ( 12.3 )
	実際	<b>60 ( 74.1 )</b>	14 ( 17.1 )	<b>21 ( 25.9 )</b>	5 ( 6.1 )

\*下段は、それぞれ「すごくそう思う」と「ちょっとそう思う」・「あまりそう思わない」と「ほとんどそう思わない」の合計人数および割合。

人(%)

Table 7 職員にしてほしいこと、実際にどれくらいしてくれるか（中学生）

		すごく そう思う		ちょっと そう思う		あまり そう思わない		ほとんど そう思わない	
		人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
①話を聞いてほしい	希望	4	( 8.3 )	20	( 41.7 )	15	( 31.3 )	9	( 18.8 )
	実際	17	( 34.7 )	25	( 51.0 )	5	( 10.2 )	2	( 4.1 )
②一緒に遊んでほしい	希望	5	( 10.4 )	9	( 18.8 )	18	( 37.5 )	16	( 33.3 )
	実際	9	( 18.4 )	17	( 34.7 )	16	( 32.7 )	7	( 14.3 )
③勉強を教えてほしい	希望	15	( 31.3 )	17	( 35.4 )	11	( 22.9 )	5	( 10.4 )
	実際	13	( 26.5 )	24	( 49.0 )	7	( 14.3 )	5	( 10.2 )
④いけないことは叱ってほしい	希望	19	( 39.6 )	18	( 37.5 )	7	( 14.6 )	4	( 8.3 )
	実際	22	( 44.9 )	24	( 49.0 )	3	( 6.1 )	0	( 0.0 )
⑤自分のよいところはほめてほしい	希望	12	( 25.0 )	14	( 29.2 )	15	( 31.3 )	7	( 14.6 )
	実際	19	( 38.8 )	18	( 36.7 )	11	( 22.4 )	1	( 2.0 )
⑥楽しいことやうれしいことは一緒に喜んでほしい	希望	17	( 35.4 )	18	( 37.5 )	7	( 14.6 )	6	( 12.5 )
	実際	14	( 28.6 )	24	( 49.0 )	7	( 14.3 )	4	( 8.2 )
⑦将来の事を一緒に考えてほしい	希望	9	( 18.8 )	22	( 45.8 )	10	( 20.8 )	7	( 14.6 )
	実際	15	( 30.6 )	15	( 30.6 )	13	( 26.5 )	6	( 12.2 )
⑧悲しいときはそばにいてほしい	希望	3	( 6.3 )	7	( 14.6 )	20	( 41.7 )	18	( 37.5 )
	実際	4	( 8.2 )	13	( 26.5 )	18	( 36.7 )	14	( 28.6 )
⑨ご飯を一緒に食べてほしい	希望	7	( 14.6 )	13	( 27.1 )	19	( 39.6 )	9	( 18.8 )
	実際	23	( 46.9 )	21	( 42.9 )	5	( 10.2 )	0	( 0.0 )

人(%)

\*下段は、それぞれ「すごくそう思う」と「ちょっとそう思う」・「あまりそう思わない」と「ほとんどそう思わない」の合計人数および割合。

## 5. 職員にしてあげたいこと

小学生では、職員にしてあげたいことが「ある」と回答した子どもが42人（51.9%）、「ない」と回答した子どもが35人（43.2%）、「わからない」と回答した子どもが4人（4.9%）、中学生では「ある」が32人（65.3%）、「ない」が16人（32.7%）、「わからない」が1人（2.0%）であった。

Table 8 は、職員にしてあげたいことが「ある」と答えた小学生42人、中学生32人を対象に分析したものである。Table 8 をみると、小学生では「直接的な関わり」が41人（97.9%）、「その他」が2人（4.8%）で、「直接的な関わり」のうち「家事・手伝い」が31人（73.8%）、「年少児の世話」が2人（4.8%）、「プレゼント」が5人（11.9%）、「その他の関わり」が9人（21.4%）であった。中学生では「直接的な関わり」が26人（81.3%）、「間接的な関わり」が4人（12.5%）「その他」が3人（9.4%）で、「直接的な関わり」のうち「家事・手伝い」が21人（65.6%）、「年少児の世話」が4人（12.5%）、「プレゼント」が2人（6.3%）、「その他の関わり」が1人（3.1%）であった。

Table 8 職員にしてあげたいこと(複数回答)小学生42人, 中学生32人

	小学生	中学生
直接的な関わり	41 ( 97.6 )	26 ( 81.3 )
家事・手伝い	31 ( 73.8 )	21 ( 65.6 )
年少児の世話	2 ( 4.8 )	4 ( 12.5 )
プレゼント	5 ( 11.9 )	2 ( 6.3 )
その他の関わり	9 ( 21.4 )	1 ( 3.1 )
間接的な関わり	0	4 ( 12.5 )
その他	2 ( 4.8 )	3 ( 9.4 )
	人(%)	

※直接的な関わりの「その他の関わり」:「肩たたき」「誕生日をしてあげる」など, 上記のこと以外に直接に職員にしてあげることに関する回答

※間接的な関わり:「いつも先生のいう事聞かないから, たまには聞こうかと思う」など直接に職員に何かしてあげるということではないが, 間接的に職員のためになることに関する回答

## 6. 施設生活で変えてほしいこと

Table 9をみると, 小学生では「施設にしてほしいこと」が34人(41.5%), 「職員にしてほしいこと」が10人(12.2%), 「他児への要望」が5人(6.1%), 「説明しなければならないこと」が13人(15.9%), 「分類不能」が6人(7.3%), 「なし」が24人(29.3%), 「わからない・沈黙」が7人(8.5%)であった。中学生では「施設にしてほしいこと」が14人(29.2%), 「職員にしてほしいこと」が7人(14.6%), 「他児への要望」が1人(2.1%), 「説明しなければならないこと」が3人(6.3%), 「分類不能」が1人(2.1%), 「なし」が26人(54.2%), 「わからない・沈黙」が1人(2.1%)であった。

Table 9 施設生活で変えてほしいこと(複数回答)小学生82人, 中学生48人

	小学生	中学生
施設にしてほしいこと	34 ( 41.5 )	14 ( 29.2 )
職員にしてほしいこと	10 ( 12.2 )	7 ( 14.6 )
他児への要望	5 ( 6.1 )	1 ( 2.1 )
説明しなければならないこと	13 ( 15.9 )	3 ( 6.3 )
分類不能	6 ( 7.3 )	1 ( 2.1 )
なし	24 ( 29.3 )	26 ( 54.2 )
	人(%)	

※施設にしてほしいこと…施設のルール, 設備, 行事など施設の運営に関連する要望

※職員にしてほしいこと…直接関わっている職員の対応に対する要望

※他児への要望…入所する他児に対する要望

※説明しなければならないこと…自分の身柄に関する事など施設が子どもたちに説明をしないてはならない事項についての要望



## 7. 好きなことができる1日があったら何をするか

Table10は小学生か中高生のいずれかについて2人以上の回答が見られたものを表にしたものである。小学生で多かった項目は「出かける・外出して遊ぶ」32人(65.3%),「遊び」23人(46.9%),「スポーツ」18人(36.7%)であった。中高生で多かった項目は「出かける・外出して遊ぶ」18人(36.7%),「ゲーム・カードゲーム」13人(26.5%),「遊び」8人(16.3%)であった。

Table 10 好きなことができる1日があったら何をするか(複数回答) 小学生82人, 中高生49人

	小学生	中高生
出かける・外出して遊ぶ	32 ( 65.3 )	18 ( 36.7 )
ゲーム・カードゲーム	13 ( 26.5 )	13 ( 26.5 )
スポーツ	18 ( 36.7 )	5 ( 10.2 )
映画・TV・音楽鑑賞	6 ( 12.2 )	4 ( 8.2 )
読書・マンガ	4 ( 8.2 )	6 ( 12.2 )
寝る	1 ( 2.0 )	7 ( 14.3 )
遊び	23 ( 46.9 )	8 ( 16.3 )
おしゃべり	3 ( 6.1 )	0
図画・工作	0	3 ( 6.1 )
調理	2 ( 4.1 )	0
食事	2 ( 4.1 )	1 ( 2.0 )
身の周りの整理	3 ( 6.1 )	0
学習	2 ( 4.1 )	0
家族に会う	5 ( 10.2 )	1 ( 2.0 )
その他	8 ( 16.3 )	7 ( 14.3 )
なし	2 ( 4.1 )	6 ( 12.2 )
わからない・沈黙	4 ( 8.2 )	0

人(%)

## 8. 行事は誰が決めるか

小学生では,“クリスマス会”では「大人が決める」が38人(46.3%),「大人と子どもが相談して決める」が27人(32.9%),「子どもたちが決める」が7人(8.5%),「その他」が2人(2.4%),「わからない・したことがない」が8人(9.8%),“キャンプ”では「大人が決める」が53人(64.6%),「大人と子どもが相談して決める」が18人(22.0%),「子どもたちが決める」が2人(2.4%),「わからない・したことがない」が9人(11.0%),“遠足・旅行”では「大人が決める」が40人(48.8%),「大人と子どもが相談して決める」が26人(31.7%),「子どもたちが決める」が4人(4.9%),「その他」が1人(1.2%),「わからない・したことがない」が11人(13.4%)であった(Table11)。

また中高生では,“クリスマス会”では「大人が決める」が14人(28.6%),「大人と子どもが相談して決める」が32人(65.3%),「子どもたちが決める」が1人(2.0%),「わからない・したことがない」が2人(4.1%),“キャンプ”では「大人が決める」が29人(59.2%),「大人と子どもが相談して決める」が13人(26.5%),「その他」が3人(6.1%),「わからない・したことがない」が4人(8.2%),“遠足・旅行”では「大人が決める」が14人(28.6%),「大人と子どもが相談して決める」が30人(61.2%),「子どもたちが決める」が3人(6.1%),「その他」が1人(2.0%),「わからない・したことがない」が1人(2.0%)であった(Table12)。

Table 11 行事を誰が決めるか (小学生)

小学生	クリスマス会	キャンプ	遠足・旅行
大人が決める	38 ( 46.3 )	53 ( 64.6 )	40 ( 48.8 )
大人と子どもが相談して決める	27 ( 32.9 )	18 ( 22.0 )	26 ( 31.7 )
子どもたちが決める	7 ( 8.5 )	2 ( 2.4 )	4 ( 4.9 )
その他	2 ( 2.4 )	0 ( 0.0 )	1 ( 1.2 )
わからない・したことがない	8 ( 9.8 )	9 ( 11.0 )	11 ( 13.4 )
	人(%)		

Table 12 行事を誰が決めるか (中高生)

中高生	クリスマス	キャンプ	遠足・旅行
大人が決める	14 ( 28.6 )	29 ( 59.2 )	14 ( 28.6 )
大人と子どもが相談して決める	32 ( 65.3 )	13 ( 26.5 )	30 ( 61.2 )
子どもたちが決める	1 ( 2.0 )	0	3 ( 6.1 )
その他	0	3 ( 6.1 )	1 ( 2.0 )
わからない・したことがない	2 ( 4.1 )	4 ( 8.2 )	1 ( 2.0 )
	人(%)		

### 9. 自分と異なる意見が出た時にどうするか

Table13をみると、小学生で「言う」が23人(28.0%),「条件付きで言う」が2人(2.4%),「言わない」が24人(29.3%),「その他」が9人(11.0%),「わからない」が24人(29.3%)であった。中高生で「言う」が13人(27.1%),「条件付きで言う」が4人(8.3%),「言わない」が19人(39.6%),「その他」が8人(16.7%),「わからない」が4人(8.3%)であった。

Table 13 違う意見が出た時にどうするか

	小学生	中高生
意見を言う	23 ( 28.0 )	13 ( 27.1 )
条件付きで言う	2 ( 2.4 )	4 ( 8.3 )
言わない	24 ( 29.3 )	19 ( 39.6 )
その他	9 ( 11.0 )	8 ( 16.7 )
わからない	24 ( 29.3 )	4 ( 8.3 )
	人(%)	

※条件付きで言う：「意見による。反対する」「後でぶつぶつ言う」など状況に応じて言い方を工夫して言う。

### 10. 施設内でけんかをしたことがあるか

小学生では「したことがある」が73人(89.0%),「したことがない」が9人(11.0%)であった。中高生で「したことがある」が44人(89.8%),「したことがない」5人(10.2%)であった。

### 11. 仲直りの方法

小学生で多かった回答は、「自分があやまる」が48人(41.4%),「互いに話し合う」が12人(10.3%),「大人に介入してもらおう」が10人(8.6%)であった。中高生で多かったのは順に「自分があやまる」が22人(31.9%),「自然に終わる・何もしない」が12人(17.4%),「互いに話し合う」が7人(10.1%)であった(Table14)。

Table 14 仲直りの方法（複数回答）小学生82人，中学生49人

分類	小学生	中学生
自分があやまる	48 ( 41.4 )	22 ( 31.9 )
自分から話かける	0	9 ( 13 )
相手があやまる	6 ( 5.2 )	2 ( 2.9 )
互いにあやまる	5 ( 4.3 )	4 ( 5.8 )
互いに話し合う	12 ( 10.3 )	7 ( 10.1 )
自然に終わる・何もしない	9 ( 7.8 )	12 ( 17.4 )
大人に介入してもらう	10 ( 8.6 )	3 ( 4.3 )
わからない	4 ( 3.4 )	3 ( 4.3 )
握手	5 ( 4.3 )	0
その他	17 ( 14.7 )	7 ( 10.1 )
		人(%)

※その他（小学生）：

「自分の意見を言う」「貸してっていても貸さんかったとき、ケンカになったら、貸してあげる」「相手から離す」「泣く」「子どもに介入してもらう」「お菓子あげる」「物をあげる」「行動で示す（2）」「励ます」「指きり」「遊んで忘れる」「仲直りしてない（2）」「沈黙（2）」「覚えていない」

※その他（中学生）：

「相手が落ち着いたときに行って考える」「離れて考える。距離を置いて、どうすればいいか考える」「相手が話しかける」「ずっとけんかしている」「仲直りしない」「物でつる」「ほっといた」

### Ⅲ. 考察

子ども達が職員の仕事をどのように捉えているかということについては、“家事”について言及した割合が最も高かった。次に多かったのが、“生活の指導、支援”であった。子どもは、職員が主にしている仕事は家事であると捉えていることがわかる。実際、子ども達は学校へ通っているため、昼間の職員の仕事を目にする機会は少ないと考えられる。したがって朝や夜の家事をしている職員がイメージされやすく、「家事」という回答が多かったのではないだろうか。

職員の様子については、“いつも忙しそうにしている”と感じている小学生では58人（71.6%）、中学生は34人（69.4%）と7割程度の回答が見られた。また、“子どもと接することに喜びを感じてくれる”では、“そう思う（はい、すごくそう思う、ちょっとそう思う）”と答えた小学生は61人（75.3%）、中学生は30人（61.2%）と半数を超えていた。一方で、“イライラしていることが良くある”と捉えている子どもは小学生で20人（24.4%）、中学生で17人（34.7%）であった。以上のことから子どもたちは職員の対応を肯定的に受け止めていると考えられる。子ども達は、多忙ではあるが情緒的に安定している職員の支援を受けて生活をしているといえるのではないだろうか。また逆を言えば、職員はたとえ忙しくても、子ども達に対応をするときは、ネガティブな情緒を表出しないように努力しているということも考えられる。

職員への要望と実際にそれをしてくれているかという項目では、小学生では“話を聞いて欲しい”“一緒に遊んで欲しい”“勉強を教えてほしい”“自分のよいところは褒めてほしい”“楽しいことやうれしいことは一緒に喜んでほしい”という希望が8割を超えている。共に活動を行う中で共感的な理解をしてほしいという意識が高いように感じられる。中学生でも“いけないことは叱ってほしい”“楽しいことやうれしいことは一緒によこんで欲しい”“将来の事をいっしょに考えてほしい”という項目では“すごくそう思う”“ちょっとそう思う”と答えた子どもが多く、子ども達への支援

として、具体的活動部分への支援より、内面的な思いへの共感的な支援が期待される。また中高生の項目では“希望”よりも“実際”に行ってくれていると感じている子どもが多いという結果になった。小学生においても、“希望”と“実際”の差が10%程度の範囲になっている。子どもの希望以上に職員が子どものことを気にかけ、努力している様子が伺える。

また職員の仕事を「家事」と捉えている子どもが多いことと合わせて、職員に対して“実際”が“希望”を超えている、あるいは“希望”と“実際”の差が10%程度の範囲に収まっている項目が多く見られた。このことから、生活場面における身辺整理、食事など多くの場面で職員が介入していることが推測され、支援の充実が考えられる一方で、子どもが関与する前に職員が先回りして行っている可能性も考えられる。子ども達は職員の仕事の様子を見ることで、生活スキルを獲得することが考えられるが、職員が先回りして家事などの世話をし、子どもが家事場面に関与しないのであれば、生活に必要なスキルは獲得することができず、子どもが社会自立する上で、弊害が起これるのではなだろうか。また、仕事＝家事と意識されているため、“働く”ということにおいては一般的な就労イメージが作りにくいのではないかとすることも考えられる。しかしながらこの点については、“実際に職員が対応してくれているので子ども達はこれ以上希望する必要はない”，すなわち適度な関係が維持されていることも考えられることから、今後さらに検討する必要があるだろう。

行事内容の決定に関しては、小学生は「子どもたちが決める」「大人と子どもが相談して決める」という回答よりも「大人が決める」と答えた割合が多かった。中学生になると、“クリスマス”“遠足・旅行”で「子どもたちが決める」「大人と子どもが相談して決める」が6割を超えてくるものの、それでも中高生の4分の1以上は、施設では意見表明の場において、大人が介入していると捉えていることが考えられた。生活を主体的に生きていくためには、施設での生活内容を決定する場面に子どもがどの程度参加しているかということが重要であるが、小学生は「大人たちが決める」と感じている場合が多いようである。中学生になると、自分の意見が施設内で取り入れられているということを感じてはいるが、それでも子ども達はなかなか自分の意見を言えていないのではないだろうか。さらに、意見の対立があるときに小学生の約30%、中学生の約40%は「言わない」と答えていた。中には「中高生が決めてしまう」という回答も見られた。「言わない」といった回答については、年長児に対して意見を言うために様子をうかがうといった「方略」ということも考えられるが、意見表明の機会における子ども間の環境調整も考えなければならないだろう。また以上のことから「変えて欲しいことはない」という回答に対しても、本当に「ない」のかどうかは慎重に考えなければならない。職員は意見表明の場に対する職員と子どもおよび子ども間の環境設定についてさらに考える必要があるだろう。

最後に、本研究での結果から子ども達の自立について考えてみたい。中高生の要望を見てみると“いけないことは叱ってほしい”という回答が多かった。とりわけ高校生にもなると、将来に向けての社会適応が目の前にある課題となっていることから、不適切な行為を修正してほしいという子ども達の要望が表現されているようにも感じられる。しかしながら一方で、自立を目前としてもさらに“いけないことは叱ってほしい”と要望するということの背景や意味については今後さらに検討していく必要がある。

また将来、生活をしていくためには何らかの収入を得なくてはならない。そのためには、“仕事をする”ということを考える必要がある。一般的な家庭を想定すると、身近な大人は家庭から外へ出て仕事をしていることが多い。しかし施設の子供達は、一番身近な支援者であり職業モデルでもある職員の仕事を“家事”や自分達の“生活の指導・支援”と捉えていることがわかった。これら

のことから、自立への適切な支援を計画する上で、施設に入所している子ども達の仕事に対するイメージがどのようなものであるかを捉えてみることも今後の課題としたい。

職員への要望や変えてほしいことなどの結果からも明らかのように、子ども達は施設において、様々な意見を持ちながら生活をしている。施設職員はその思いを十分に受け止めながら支援をする必要があり、また実際にそうしているということが示唆された。そして子ども達自らがその思いを表明できるように、とりわけ異なる意見を躊躇することなく表明できる場について保障する必要があるだろう。そうすることが、子ども達の安定した施設生活や子どもの権利の保障につながると考える。

## 文献

田丸敏高・神谷哲司・奥野隆一・塩野谷齊 『児童養護施設における教育福祉連携の課題—全国施設長を通じて—』2007年度科学研究費補助金（基礎研究B課題番号17330167）研究報告

「地域の教育福祉諸機関の連携に関する総合的研究—新しい専門性の形成を目指して—」鳥取大学地域学部地域教育学科・鳥取大学生涯教育総合センター 2008

内藤綾子・田村崇・瀬尾麻実・田丸敏高 2009 児童養護施設児における「子どもの権利ノート」の理解 地域学論集（鳥取大学地域学部紀要）第6巻第1号

## 付記

本研究は、平成20年度科学研究費助成金による基盤研究（C）「児童養護施設児の生活と発達に応じた「子どもの権利」教育用教材・指導評価法の開発」（代表田丸敏高：科研番号20530731）におけるインタビュー調査（一部）をもとにまとめられたものです。調査に関わってくださった水野壮一氏、河本円佳氏、神保舞子氏に御礼申し上げます。

調査にあたっては、児童養護施設の子ども達をはじめ、施設長ならびに職員のみなさまにご尽力いただきました。ここに感謝申し上げます。またインタビューは鳥取県児童養護施設協議会調査研究委員会処遇研究部会（平智康氏・野田慎二氏・山本隆史氏・山口敏士氏・船越智之氏）にご協力いただきました。記して感謝いたします。

（2009年10月7日受付，2009年10月20日受理）